

長田地区  
コミュニティバス



自由民主党 静岡市議会議員団

# 市政報告

令和6年3月  
2024.03



自由民主党 静岡市議会議員団 〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1 静岡市役所内 電話/FAX:054-252-0543

## ご挨拶

希望の新春を迎え、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
皆さまには、静岡市議会議員としての活動に格別のご協力賜り、誠にありがとうございます。  
新年早々に発生した能登半島地震に被災された皆さまに心よりお見舞いと、一刻も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。  
いつ起こるかわからない災害にしっかりと備え、笑顔があふれ、一人ひとりが輝くことができる安全で安心な静岡市にするべく、一つ一つの施策に全力で取り組んでまいりますので、今後とも引き続きご指導いただければ幸いです。

しらはま ふみのり  
静岡市議会議員 白濱 史教



## 常任委員会 企業消防委員会

上下水道局および消防局の所管に関する事項を取り扱う委員会に所属し、私たちの生活に欠かせないインフラ整備や、令和4年台風15号を踏まえた浸水害対策、消防力強化にむけた施策などについて一年間審議してきました。



## 特別委員会 デジタル社会推進特別委員会

便利で暮らしやすいデジタル社会の実現に向けて、ICTを活用した市民の安全安心の確保、市民サービスの向上、行政の効率化や「GIGA スクール構想」等に係る調査および施策の推進に関する協議・討議・提言を行っています。





# 脱炭素社会実現に向けたコミュニティバス導入の取り組み

## 質問

地域の交通空白を解消し、生活利便性向上と交通弱者の社会参加機会確保のための施策が必要！

地域が目指すべき将来像とともに、その中で、地域の公共交通が果たすべき役割を明確化した上で、公共交通の活性化に向けた取組の方向性を定めることが重要となりますが、本市における公共交通の課題とその対応方法はどうようなものでしょうか？

●答弁：都市局長

静岡市の公共交通の課題とその対応方針についてですが、交通分野を取り巻く状況は、自動運転技術の進歩や新たなモビリティの出現、配車サービスやシェアリングの普及など、これまでの交通手段を超えたサービスの多様化が進み、交通サービスの在り方自体が転換期を迎えております。

また、超高齢社会の進展や新型コロナウイルス感染拡大により、公共交通利用者の減少が進み、その回復及び交通事業の継続が全国的な課題となっています。

本市におきましても、利用者の回復は喫緊の課題であり、静岡型M a a S 基幹事業実証プロジェクトの社会実験などによる検証から、その主な要因が市民の移動ニーズと既存交通のミスマッチにあると認識しております。

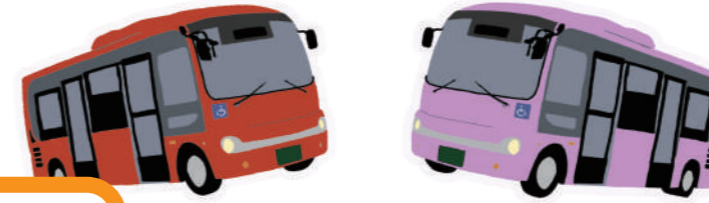
そこで、このミスマッチを解消するため、既存交通の隙間を埋める交通サービスをさらに増やしていくことが必要と考えており、乗合タクシーなど新たな移動サービスの創出やパルクルなどシェアリング事業の普及といった取組を進めております。

こうした取組を通じて、多様化する個人の生活様式に見合った移動手段が選択できるよう、駅やバス停から自宅、目的地を結ぶファーストラストワンマイルの交通を充実させ、シームレスなネットワークの構築とその最適化が重要であると考えております。

## 意見・要望

- 新しい公共交通サービスについて、まさに地域交通の将来像を形づくる共創の実践、鉄道やタクシー、住民の相互支援を含めた連携の検討が必要。デジタル技術などを活用し、公共交通を使い外出したいと感じる需要喚起型の制度設計を目指して、交通拠点から自宅、目的地までのファーストラストワンマイルを支援する考え方を組み入れた静岡市の公共交通の将来像を描いて欲しいです。長田地区で始まるこのコミュニティバスは、まさに先進事例になるものだと考えます。地域住民の思いが民間活力によって実現していく本取組は、全国的にも例がない画期的な事業です。地域の皆様の並々ならぬ地域愛と努力の成果による素晴らしい本取組は、面的な公共交通ネットワークを実現する新しい時代の交通サービスであります。行政としても、基幹となる既存公共交通をしっかりと維持していくとともに、本コミュニティバスやタクシー、パルクルなどの多用な交通サービスと連携、共創していくことで、相乗効果を発揮させられるような、誰ひとり取り残さない交通計画を組み立てていただきたいと思います。
- 長田地区のコミュニティバスが持続可能な交通を維持できるように、地域や民間活力任せではなく、情報発信やイベントとの連携など、利用促進に向けた力強いご支援をお願いします。

## 質問



JR 安倍川駅と用宗駅を中心に、医療施設、商業施設、公共施設をつなぐコミュニティバスは、地域住民の大切な移動手段として、既存の公共交通を補完する予定です。このバスは地域から生まれた民間主導の取り組みで全国でも珍しい試みとされており、静岡市における公共交通の新たな可能性を開くものと期待しています。長田地区の地域発民間主導型コミュニティバスに対して、市はどのような支援を考えているのでしょうか？

●答弁：都市局長

仮称長田地区コミュニティバスに対する市の考え方についてですが、先ほど議員からお話のあったとおり、駿河区の長田地区では、地域主体のコミュニティバスの試験運行が地元有志を中心に進められているところです。このコミュニティバスは、安倍川駅や用宗駅を経由する循環型バスで、通院や買物など、長田地区の移動の利便性向上に資する取組であるとともに、静岡市地域公共交通網形成計画の施策にも合致すると考えております。こうしたかゆいところに手が届く地域主体のきめ細やかな交通サービスの提供は、高齢化が進み、交通弱者が増えていくことが想定される中で、地域の課題解決に有効な取組になると期待しております。

本市としては、今回の試験運行に合わせ、静岡型M a a S 基幹事業実証プロジェクトにおいて、乗降データの収集などを実施、検討材料となる基礎情報を集め、地域と連携して移動ニーズの把握や運行課題の洗い出し、実装に向けた分析を進めていきたいと考えております。

また、実装に向けた検討の際は、地域の声に耳を傾け、既存公共交通との連携調整を図りながら、長田地区の交通サービスの最適化を目指して取り組んでまいります。

議会質問の様子はコチラからご覧いただけます。

